



盲導犬育成の支援と啓蒙活動で お客様や従業員の意識も向上

福岡県 株式会社イクティス 「九州盲導犬協会への盲導犬 育成資金の募金・贈呈及び 啓蒙活動」事業



株式会社イクティス
代表取締役
満江多佳子さん



九州盲導犬協会への盲導犬育成資金の贈呈式

盲導犬への理解を深めるとともに 九州盲導犬協会への継続的寄付

福岡県に拠点を置き、同県、大分県、兵庫県、大阪府で計18のヴィーナスギャラリー、スロパラⅢといったホールを展開する株式会社イクティスでは、2001年から盲導犬育成のための支援と盲導犬に関する情報発信や啓蒙活動に取り組んでいる。

この事業を始めるきっかけになったのは、同社の施設を利用しているお客様に盲導犬ユーザーの人がいたこと、同社グループの代表者が盲導犬ユーザーの人と交流があったことだ。そうした交流の中で盲導犬の育成には多額の費用がかかるうえ、盲導犬を必要としている人に対して、盲導犬の数が圧倒的に足りていないこと、また盲導犬が貸与されることで、目の不自由な人々の行動範囲が大きく広がり、外出の機会が増えることなどを知ったという。

同社の企業理念に「お客様に喜んで頂くために」というフレーズがあり、そのお客様とは、ホールに来場する遊技客だけではなく、地域とともに暮らす障がいを持つ人々も含まれ、そうした人々に対して、企業として何かできることはないと考え、盲導犬育成支援を開始した。公益財団法人九州盲導犬協会が福岡県内にあることから、地元で恩返ししたいという思いもあったという。九州盲導犬協会からは16年におよぶ支援活動が認められ、感謝状も授与されている。



九州盲導犬協会から感謝状を授与



活動を伝えるポスターをホールに掲示し、遊技客に周知

ホール来場者からの活動への関心と 従業員の仕事のやりがいにつながる

イクティスでは毎年4月、100万円を九州盲導犬協会へ寄贈しているが、そのときに全社員が参加して贈呈式を実施するとともに、同協会に依頼して盲導犬に関する講演や盲導犬の訓練のデモンストレーションをしてもらっているという。

この贈呈式にはRKB毎日放送、FBS福岡放送、KBC九州朝日放送など、地元の放送局各社が取材に訪れ、報道番組などで放映されていることから盲導犬に対する関心が高まるうえ、その番組を見たというホール来場者から、「なぜ、盲導犬育成支援事業をしているのか?」という支援活動に対する問い合わせを受ける機会も増えてきたと、同社では話す。その趣旨を説明すると、「盲導犬についてよく知らなかった」という人が多く、同社の活動が盲導犬理解の一助となっていることを実感しているという。また、贈呈式後は、活動の内容をはじめ、盲導犬の現状などをまとめたポスターを作成し、全店舗や関連施設に掲示することで、来店客への情報発信と盲導犬への理解を呼び掛けている。

こうした活動を通じ、社員の中に盲導犬に対する関心が高まり、盲導犬に関して自ら進んで情報収集を行ったり、街中で盲導犬に出会ったときに、適切な対応ができる人が増えているという。同時に、自分たちの活動が社会貢献につながっていることを実感できることで、仕事のやりがいやモチベーションにもつながっているという。

同社では今後も地域社会の皆様への感謝の気持ちを忘れず、地域社会に盲導犬への理解が一層広がることを期待するだけでなく、社業や社会貢献活動を通じて地域社会から愛される企業を目指し、努力を重ねていくという。